

2023 年度 Intercultural Collaborative Learning (ICL)

単位互換履修生 募集要項

1. ICL プロジェクトについて

東北大学、福島大学、東京外国語大学、信州大学、大阪大学、神戸大学の6大学（ICL コンソーシアム）は、文部科学省大学の国際化促進フォーラム事業の支援を受け『国際共修ネットワークによる大学教育の内なる国際化の加速と世界展開（ICL プロジェクト）』を2021年度に開始しました。このプロジェクトは留学生と国内学生の協働を授業・活動に組み入れた国際共修（ICL）の授業実践を通じ国内外の機関と共有し、高度化、国際的通用性の向上を図りながら国内外に横展開することを目的としています。

本プロジェクトでは、ICL コンソーシアムが開講する6学際領域に関連する国際共修授業科目（ICL 科目）を単位互換可能な形で提供します。¹これら大学に在籍する学生は、在籍大学の定める範囲内で他大学のICL 科目を履修することが可能です。単位互換履修生として履修を希望する方は、本募集要項に従い出願してください。

2. 学修到達目標

本プロジェクトによる単位互換可能な授業交流を通じて、学生の国際的な学習体験の多様化と国・地域・大学を超えた学生ネットワークの形成・拡大を図り、国際性を重視し世界共通の課題の解決に挑む新時代のグローバル人材を育成します。授業では科目コンテンツの学修と文化的・言語的に多様な背景をもつ学生との意味ある交流（meaningful interaction）等を有機的に融合し、学びの質を高め、各学際領域に設定した学修到達目標の達成を目指します。

学際領域	学修到達目標
SDGs	持続可能な開発目標に対する理解を促進し、多様な視点で世界共通の課題に対する解決策を地球市民として提案する力を伸ばす
震災・復興	阪神・淡路大震災、東日本大震災の被害や減災・防災について学び、復興のプロセス・成果を世界に発信する力を身につける
異文化理解	言語・文化背景の異なる人々を理解・受容し、自文化をクリティカルに再考する中で、新しい価値観や創造力を身につける
産学連携・リーダーシップ	グローバルな環境で価値観の異なる人とでも協働し、課題発見・解決に能動的に関わりとうとするコミュニケーション力・行動力・リーダーシップを習得する
日本文化・社会	日本の文化・歴史・慣習・社会事情に深い造詣をもち、日本の魅力や課題を多角的な視点で分析・議論する力を身につける
地域社会との協働	地域社会の魅力や課題、また地域に暮らす人々を理解し、グローバルな視点で地域の発展につながる提案力・行動力を身につける

¹ 科目により単位互換が認められない場合があります。単位互換の可否については所属大学に確認してください。

3. ICL 科目（単位互換科目）

2023 年度は 6 つの学際分野から以下の ICL 科目（日本語又は英語）を開講します。開講科目については、p. 6 の「2023 年度 ICL 開講科目一覧」をご覧ください。また、各科目の詳細及びシラバスは [ICL プログラムウェブサイト](#)をご覧ください。科目によっては定員や対象学年（セメスター）が定められていることがあります。

4. 募集対象者

東北大学、福島大学、東京外国語大学、信州大学、大阪大学、神戸大学に履修期間を通じ在学する学部学生となります。（**大学院生は対象外です。**）その他、学部相当の交換留学生（特別聴講学生）も各大学の取り扱いにより履修可能な場合がありますので、希望する方は所属する大学の窓口にお問い合わせください。

5. 受講定員

科目により受講定員が定められており、履修希望者数が定員を上回る場合は開講大学での審査の結果、希望する科目の履修ができない場合がありますのでご注意ください。

6. ICL 科目履修までの流れ（申請方法）

履修を希望する方は、以下の手順で行ってください。

1. 下記 8「申請にあたっての確認事項」を確認する。
2. 履修を希望する授業科目を上記「3.ICL 科目(単位互換科目)」等を参照し決定する。
3. 所属学部の教務担当係に様式「ICL 単位互換履修申請届出書」※を提出する。
※グローバルラーニングセンター[募集サイト](#)からダウンロード可能
4. 上記 3 の「届出書」を提出する際に、所属学部の教務担当係に ICL 科目を履修することについて許可を得る。
5. 所属学部の教務担当係より許可を得た後、[ICL 科目履修申請フォーム](#)から必要事項を入力する。
6. 授業科目履修の可否について下記「15.問い合わせ先」に記載の東北大学担当事務局から受理する。
7. 開講大学の案内に従い、ICL 科目の履修を開始する。

7. 申請期限

各学期の ICL 科目の履修申請期限は、以下のとおりです。

- 前期（一学期）：2023 年 3 月 6 日（月）正午
- 後期（二学期）：後日決定

8. 申請にあたっての確認事項

事前に以下の点を確認のうえ履修申請をしてください。

- 在籍大学で事前に確認・手続きを行う必要がある場合、その指示に従ってください。
- 履修を希望する科目が指定する履修要件（例：英語力）を満たしているかをシラバス等で確認してください。
- 開講大学により授業時間が異なります。時間割の重複は認められませんので、履修を希望する ICL 科目と前後する自大学の科目の授業時間に重複がないか必ず確認してください。履修単位数の上限を超えることのないよう、在籍大学のルールを確認してください。

9. 在籍身分

履修を許可された学生は開講大学の特別聴講学生の身分を有します。

10. 成績評価と単位認定

ICL 科目の成績評価は開講大学の定めによります。修得した成績の単位認定方法は、在籍大学において確認してください。

11. 授業料等

ICL 科目を履修するための授業料・入学料・検定料等は徴収しません。その他、実習費・材料費等の有無についてはシラバス等で確認してください。

12. 受講方法

ICL 科目は、原則、オンライン授業となるため、受講の際に、各自パソコンやインターネット環境等が必要となります。

13. 授業開始日及び履修辞退手続き

各 ICL 科目開講大学の前期の学期（一学期）は下表のとおり開始します。ICL 科目の履修許可を得た後、原則として ICL 科目の履修辞退はできませんので、申請前に履修計画をしっかりと立ててください。やむを得ない事情により履修を辞退しなければならない場合は、下表に定める履修辞退届出期限までに下記 15 に記載の所属大学問合せ先へ届け出てください。科目を開講する大学によって、履修辞退届出期限が異なるので留意してください。

科目	前期の学期（一学期）開始日	履修辞退届出期限 (所属大学の担当窓口へ提出)
東北大学開講科目	2023 年 4 月 10 日	2023 年 4 月 18 日
福島大学開講科目	2023 年 4 月 7 日	2023 年 4 月 14 日
東京外国語大学開講科目	2023 年 4 月 10 日	2023 年 4 月 19 日
信州大学開講科目	2023 年 4 月 10 日	2023 年 4 月 24 日
大阪大学開講科目	2023 年 4 月 11 日	2023 年 4 月 18 日
神戸大学開講科目	2023 年 4 月 10 日	2023 年 4 月 30 日

【例：東北大学生が福島大学が開講する科目の履修辞退を行う場合】

東北大学生は、下記 15 に記載の東北大学問合せ先（教育・学生支援部留学生課 ICL プロジェクト事務局）に 2023 年 4 月 14 日までに届出る必要があります。4 月 15 日以降は、福島大学が開講する科目の履修辞退はできません。

14. 公欠

公欠については開講大学の定めによります。

15. 問合せ先

本プロジェクト並びに ICL 科目の履修等に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

大学	部署	メール
東北大学	教育・学生支援部留学生課 ICL プロジェクト事務局	icl-admin@grp.tohoku.ac.jp
福島大学	国際交流センター	ryugaku@adb.fukushima-u.ac.jp
東京外国語大学	学務部教務課教務係	kyoumu-kakari@tufs.ac.jp
信州大学	グローバル化推進センター	icl-shinshu@shinshu-u.ac.jp
大阪大学	国際部国際学生交流課留学生交流係	icl-osaka@ml.office.osaka-u.ac.jp
神戸大学	学務部学際教育課	stdnt-gks-kyoumu@office.kobe-u.ac.jp

2023 年度 ICL 開講科目一覧

2023 年度に開講予定の ICL 科目一覧となります。開講科目の詳細及びシラバス等は、2 月中旬を目途に [ICL プログラムウェブサイト](#) に掲載しますので確認のうえ申請を行ってください。

【前期（1 学期）開講科目】

学際領域	開講大学	開講科目名	講義題目等	教授言語	単位数	曜日・時間	定員※1
SDGs	東北大学	国際教養 特定課題	【国際共修】日本と世界の大学	英語	2	月 10:30-12:00	20
震災・復興	福島大学	国際協働プロジェクト学習 I	国際協働プロジェクト学習 I	英語	2	木 14:40-16:10	25
異文化理解	東北大学	グローバル特定 課題	【展開ゼミ】異文化コミュニケーション 学基礎：理論と実践演習	日本語	2	火 8:50-10:20	5
異文化理解	東北大学	国際事情	アフリカの現状とグローバルシステム	英語	2	月 14:40-16:10	50
異文化理解	信州大学	多文化融合論	多文化融合論	日本語	2	月 16:50-18:20	
異文化理解	大阪大学	日本の社会と イデオロギー	日本の社会とイデオロギー	英語	2	月 15:10-16:40	各大学 2
日本文化・ 社会	東北大学	国際教養 特定課題	【国際共修】日本の企業文化と意思 決定	英語	2	月 10:30-12:00	5
日本文化・ 社会	東北大学	キャリア関連学習	【国際共修】日本企業の人事管理シ ステムとキャリアデザイン講座	英語	2	月 8:50-10:20	20
日本文化・ 社会	東京外国 語大学	日本の文学と 文化を知る 1	日本の首都、東京と京都	英語	2	水 12:40-14:10	10
日本文化・ 社会	神戸大学	総合科目 I 多 文化共生のため の日本語コミュニ ケーション	総合科目 I 多文化共生のための日 本語コミュニケーション	日本語	1	月 17:00-18:30 ※2	20

※1：定員は ICL コンソーシアム加盟大学からの参加可能人数。定員の記載がない科目は、定員を特に定めていない。

※2：*第2クォータ開講科目

【2023年度前期】ICL科目_読み替え科目リスト

ICL開講科目

開講科目名		講義題目等	担当教員	学際領域	教授言語	単位数	授業概要
福島大学（前期）	国際協働プロジェクトI (International Collaborative Project Learning I)	国際協働プロジェクトI (International Collaborative Project Learning I)	マクミケル・ウィリアム	震災・復興 (Natural Disaster/Recovery)	英語	2	More than twelve years have passed since the March 11th disasters, yet the impact of the Nuclear Power Plant accident continues to affect the image of Fukushima around the world negatively. To help overcome this challenge, students will partake in project work in this class related to the Our Fukushima Project, a student-led initiative started in 2019 that aims to promote student perspectives about Fukushima to the world through the use of media platforms such as Youtube, Instagram, and Tiktok. 東日本大震災から12年以上が経過しましたが、原子力事故の影響は今もなお、世界中の福島イメージにマイナスの影響を与えています。 この授業では、この状況を解決する事に特化したプロジェクトワークに取り組みます。具体的には、2019年に留学生たちが立ち上げた情報発信プロジェクト「Our Fukushima Project」に関連した様々なコンテンツを、Youtube、Instagram、Tiktokなどといったソーシャルメディアを含む様々な手段を駆使しながら、企画・実施していきます。
東京外国語大学（前期）	日本の文学と文化を知るI (Aspects of Japanese Literature and Culture I)	日本の首都、東京と京都 (Japan's Capitals: Tokyo and Kyoto)	ジョナサン・モリス	日本文化・社会 (Japanese Culture/Society)	英語	2	本コースでは、日本の文化首都である京都と政治首都である東京について学びます。両都市は新しい権力基盤として設立され、日本の歴史と文化において主要な役割を担ってきました。そのため、両都市の成立に至った経緯が出发点となります。本講座では、このような歴史的背景と展開を説明した上で、京都と東京の経済、宗教、建築、インフラ、文化などを概観します。 特に地図を中心とした実物資料や物資文化の活用は重要な教育方法です。学生は、東京または京都の一つの地域について、地図資料に基づきレポートを執筆します。観光、出版、映画、音楽、美術、文学など、各時代の都市の文化的影響が紹介されます。伝統的な工芸品や消費財も取り上げられます。また、京都と東京の過去と現在の食文化についても、それぞれ1回授業内で取り上げます。学生は、ガイダンスを受けながら、関連するテーマを選んで研究エッセイを作成します。 This course examines Japan's cultural capital Kyoto and its political capital Tokyo. Both cities were established as new power bases for elites, and the leading roles they have played in Japanese history and culture could very easily have been held by other locations. The circumstances that led to their founding are thus the necessary starting point. With the general historical background and development explained, this course goes on to provide a survey of the economy, religion, architecture, infrastructure and culture of Kyoto and Tokyo. The use of realia and material culture, particularly maps, is a key teaching method. All students will write a report on an area of Tokyo or Kyoto using cartographic materials. The wider cultural impact of the cities is presented, with reference to tourism, publishing, film, music, art and literature in various periods. The crafts and consumer goods produced in traditional neighborhoods are another topic for study, and a class each will be devoted to the food culture of Kyoto and Tokyo past and present. Students will produce a research essay on a relevant topic of their choice with the guidance of the instructor.
信州大学（前期）	多文化融合論 Multi-cultural Assimilation	多文化融合論 Multi-cultural Assimilation	仙石 祐	異文化理解 (Multicultural Awareness)	日本語	2	世界には様々な民族・文化及び宗教といった要素が広がっており、その直下には固有の歴史が堆積している。こうした複合的構成をなす現代世界においては、今日グローバル化が進んでいるが、グローバル人材にはそれらの要素の理解が必須であろう。本講義では多文化融合のフィールドとしてマレー半島・中東及び南米に注目し、政治・経済・文化・生活など様々な事象を多文脈から眺め、それらについての理解を深める。また国内学生と留学生が協働する中で、学習者が異文化事象を相対化し、異文化とうまく付き合っていくための基礎を形成することをねらいとする。
大阪大学（前期）	日本の社会とイデオロギー (Japan: Society and Ideology)	日本の社会とイデオロギー (Japan: Society and Ideology)	近藤 佐知彦	異文化理解 (Multicultural Awareness)	英語	2	この講義では、日本の社会構造と現代日本のイデオロギーの関係を探る。イデオロギーは人々の生活や価値観を規定しているが、この講義では民主社会において日本人がどのように日々の生活で他の構成員と折り合いをつけ、社会構造を維持しているかを学ぶ。イデオロギーというと、政治的な問題として考えられがちである。しかし、社会心理学的な観点から、私たちの日常生活を決定するものとしてイデオロギーを再考する。 This lecture explores the relationship between modern Japanese social structure and today's Japanese ideology, which determine the value system and everyday rules of ordinary democratic minded people. This lecture is, in other words, designed for those who wish to learn how Japanese people accommodate other members of society and present social structures. Ideology has tended to be thought as a political matter. However, from a social psychological point of view, we need to think about what determines our everyday lives.
神戸大学（前期）	総合科目I 多文化共生のための日本語コミュニケーション (Current Issues I Communication in Japanese for Multicultural Society)	総合科目I 多文化共生のための日本語コミュニケーション (Current Issues I Communication in Japanese for Multicultural Society)	黒田 千晴、齋藤 美穂、川上 尚恵、朴 秀娟	日本文化・社会 (Japanese Culture/Society)	日本語	1	本授業では、多文化共生社会の概念について知識を深め、その社会の構成員として必要となる基礎知識や能力を涵養することを目指す。留学生を含む地域の定住外国人との交流に興味がある学生を主たる対象とし、日本社会や大学のキャンパスにおける多様性について、ケース・メソッドの手法を用いたディスカッションやグループワークを通して学ぶ。本授業は、神戸大学の学生に対しては対面で実施し、ICL履修学生に対してはZoomを用いた遠隔リアルタイムを併用するハイフレックスの形式で実施する。 This class aims to deepen students' knowledge of the concept of a multicultural society and to foster the basic knowledge and competencies that are necessary as members of such a society. Students will learn about diversity in Japanese society and on college campuses in Japan through discussion and group work in a case method approach. This class will be conducted in a high-flex format with face-to-face for Kobe University students and remote real-time using Zoom for ICL students.

※神戸大学が開講する「総合科目I 多文化共生のための日本語コミュニケーション (Current Issues I Communication in Japanese for Multicultural Society)」については、学部によっては卒業要件単位もしくは自由聴講科目の単位として認められる場合があります。その可否については、所属学部担当係にお問い合わせください。

相当する東北大学の授業

旧カリ

開講科目名	単位数
国際教養	2
日本社会・文化B	2
異文化理解	2
異文化理解	2

相当する東北大学の授業

新カリ

開講科目名	単位数
国際教養特定課題	2
文化と社会の探求	2
多文化特定課題	2
多文化特定課題	2